

## 令和7年8月5日(火)―8月17日(日) 10:00―19:00 (最終日は16:00まで) 〓会期中無休・入場無料〓船橋市民ギャラリー

●主催＝公益財団法人船橋市公園協会、ふなばし現代アート展「アラカルト」実行委員会 ●共催＝船橋市教育委員会 ●後援＝船橋市、朝日新聞千葉総局、千葉日報社、毎日新聞社千葉支局、読売新聞千葉支局、株式会社ジェイコム千葉、YY船橋留志野局

〔関連イベント1〕

瓜生剛アークシヨツヅ〓ベタっと、えのく遊びから発見！―デジタルマニアお絵描き体験―

8月9日(土) 13:30―15:30 〈定員〉25名 ※要予約 〈対象〉幼稚園児以上 〈参加費〉一人500円  
(申込方法) 市民ギャラリーへ電話か、直接窓口へお申込みください。

〔関連イベント2〕

参加アーティストによるギャラリートーク

8月17日(日) 14:00―15:30 予約不要、参加無料

船橋市民ギャラリー

273-0005 千葉県船橋市本町2-1-1 船橋スクエア21ビル3F

Tel: 047-420-2111 Fax: 047-420-2112 E-Mail: sougou@t-bumpo.or.jp

・JR総武線船橋駅南口徒歩7分 ・京成線京成船橋駅徒歩5分



伊東五津美 Izumi Ito<sup>[1]</sup> || 瓜生剛 Tsuyoshi Uryu<sup>[2]</sup> || 小國玄真 Haruma Oguni<sup>[3]</sup> || 奥山鼓太郎 Kotaro Okuyama<sup>[4]</sup> ||  
 木床亜由美 Ayumi Kidoko<sup>[5]</sup> || 佐賀巧 Takumi Sanuki<sup>[6]</sup> || シヤングリラセーコー Shangri La Seiko<sup>[7]</sup> || 諏訪部佐代子 Sayoko Suwabe<sup>[8]</sup> ||  
 高木彩佳 Ayaka Takagi<sup>[9]</sup> || 高原悠子 Yuko Takahara<sup>[10]</sup> || 立原真理子 Mariko Tachihara<sup>[11]</sup> || 田中充 Mitsuru Tanaka<sup>[12]</sup> ||  
 中根唯 Yui Nakane<sup>[13]</sup> || 仲村浩一 Koichi Nakamura<sup>[14]</sup> || 中山開 Kai Nakayama<sup>[15]</sup> || 名雪大河 Taiga Nayuki<sup>[16]</sup> || 林煥介 Kohsuke Hayashi<sup>[17]</sup> ||  
 林菜穂 Nao Hayashi<sup>[18]</sup> || 林航 Wataru Hayashi<sup>[19]</sup> || 松田直樹 Naoki Matsuda<sup>[20]</sup> || 丸子目記 Maki Maruko<sup>[21]</sup> ||  
 水谷真弥子 Mayako Mizutani<sup>[22]</sup> || 水野圭介 Keisuke Mizuno<sup>[23]</sup> || 室井麻未 Mami Muroi<sup>[24]</sup> || 八木さやか Sayaka Yagi<sup>[25]</sup> ||  
 山崎慧 Kei Yamazaki<sup>[26]</sup> || 横尾拓郎 Takuro Yokoo<sup>[27]</sup> || 横山輝 Hikaru Yokoyama<sup>[28]</sup>





「7」シャングリラセーコー Shangri La Seiko



「14」仲村浩一 Koichi Nakamura



「21」丸子日記 Maki Maruko



「28」横山輝 Hikaru Yokoyama

「6」佐貫巧 Takumi Sanuki

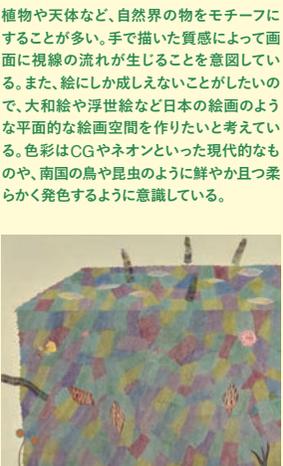


「13」中根唯 Yui Nakane



「27」横尾拓郎 Takuro Yokoo

「5」木床亜由美 Ayumi Kidoko



「12」田中充 Mitsuru Tanaka



「26」山崎慧 Kei Yamazaki

「4」奥山鼓太郎 Kotaro Okuyama



「11」立原真理子 Mariko Tachihara



「25」八木さやか Sayaka Yagi

「3」小國玄真 Haruma Oguni



「10」高原悠子 Yuko Takahara



「24」室井麻未 Mami Muroi

「2」瓜生剛 Tsuyoshi Uryu

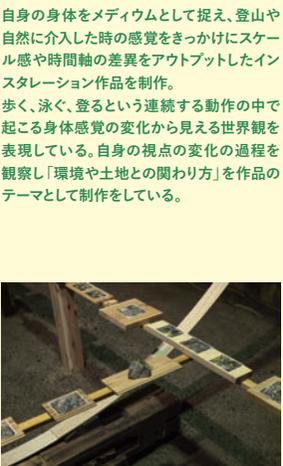


「9」高木彩佳 Ayaka Takagi

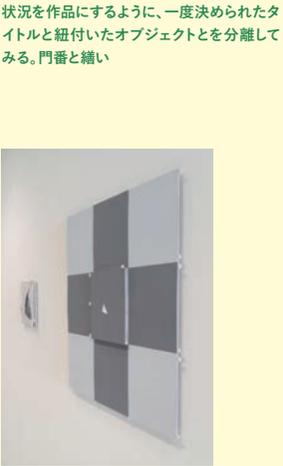


「23」水野圭介 Keisuke Mizuno

「1」伊東五津美 Izumi Ito



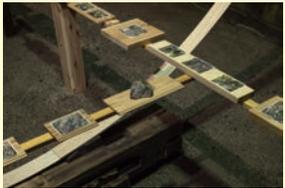
「8」諏訪部佐代子 Sayoko Suwabe



「22」水谷真弥子 Mayako Mizutani



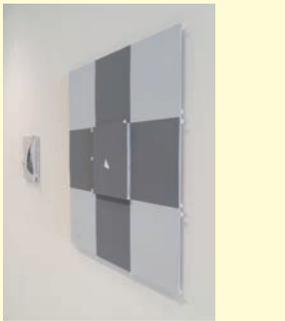
自身の身体をメディウムとして捉え、登山や自然に介入した時の感覚をきっかけにスケール感や時間軸の差異をアウトプットしたインスタレーション作品を制作。



世界は絶えず、形を変えている。触れたそばから崩れ、名づけた途端にすり抜けていく。いつかどこかにあったかもしれない風景を、仮に立ち上げてみる。



状況を作品にするように、一度決められたタイトルと紐付いたオブジェクトとを分離してみる。順番と織い



生活の中で見つけた身近な自然の美しさをモチーフに絵を描いています。画布の凹凸を活かしながら絵の具を重ねていくことで、淡い色彩と独自の質感で味わい深い作品になるように制作しています。



視覚メディアを横断しつつ、多視点の空間、または鏡や水といったイメージを用いることで、拡張する場を探っている。



動物を擬人化することによって人間の行いの異質さの表現を第一のテーマに絵描いています。カエルを擬人化していますがこれは、全身に毛が無く、水陸生きて行ける、変体の最終形のカエルは人間で言う所の成人ですが擬人化によってコミカルになるその無邪気な姿を地球上で最も知恵がありながら自由気ままに生きている人間の姿との共通点として選びました。カエルによる人間の行動を客観的に見ることによってその姿に異質さや共感を見とらえたと思います。



—



毒で輪郭を滲ませ、美しいものを依り代に日々の備忘録を綴る。事柄も想いも伝わらなくとも、元より伝えるつもりがなくとも、それらを無かったことにはしたくない。ただ、それだけ。



ストーリーやメッセージをなるべく排除して純粋な形を作ることを目標に、自然物のモチーフと人工的な形を組み合わせて大きな立体を作成しています。



ふたつ以上のものができあがることを制作の前提としている。作られたものは、他の対象と関係することを条件として、決定的になることを避けるよう機能する。作られたものが「作品(=表現)」と呼ばれるか、「デザイン(=再現)」と呼ばれるかは些細な問題で、そこに支配関係はもうない。ある種の作為が達成されるならば、「家具」を作っても、「花」を選んでもいい。もしかしたら「会話」でも「運動」でもいいかもしれない。



変化する景色と自分との関わりを探りながら制作をしています。



絵画を描くという制作行為の内にある、素材・技術の構造や関係性を捉え直し、絵画制作をモチーフにした絵画作品という可能性を模索、実践しています。デジタルメディア、生成AIと共に視覚体験の形が変容し続ける今日に、絵具で描かれる具象絵画への新しい向き合い方を考えます。



網戸・蚊帳・障子枠などを支持体に、刺繍糸で風景を描き重ねることで、「風景の中の境界」や、「奥性」と「間」の在り方を探っています。近作では、内と外をつなぐ曖昧な緩衝地帯として、旅館の「広縁」とその旅にまつわる風景や薪能をモチーフに作品を展開しています。



千葉県生まれ。人間やわたしが生きていく為に最低限もしくは過剰に摂取、あるいは窃取する人間以外の動植物らのことなどを絵などかきながら考えている。



前回出品した時の作品は、電線が区切った空を、それぞれ好きな色や意図した色で色面構成をした作品でした。今回はその色面を、剥がしてみることにしました。剥がしたその断片が空色の薔薇に、剥がれた空からは何が見えるか、空想は続きます。



こんにちは、田中充です。久しぶりのアラカルト展の出品になります。皆さんよろしくお願ひします。



記憶の中の光や音など、日常の中で実際の熱や力を持たないものを感じる「リアリティ」にまつわる制作を行っています。



4月、5月にぐんぐん繁る勢いのあるみどりに初夏を感じるころ、季節を問わずあまり変わらない姿で、じっとずっとしている。大抵は常緑樹で作られることが多い、いけ垣。人の視線を遮る用途などであちこちに存在しながら、それ自体が見られることはあんまりない。けれど、よく見るとちょっとユニークな姿かたちだったりする。葉っぱを版面でたくさん刷って貼り合わせて、作品として「見られる存在」にしてみる。作り始めた昨年、いけ垣の存在は「気になるアイツ第1位」だったものが、いま、自動車免許取得の最中では、見通しの悪い交差点を構成する「ニクイアイツ第1位」として、私の注目を集め続けています。



絵を描く延長線上で立体的な作品を作っています。具体的には長い棒の先に小さな風景を描いたり、丸く膨らんだような形体に生き物のような毛並みを描いたりしています。そうやって「モノ」としての印象と「絵画」として鑑賞したときの作品のイメージが交錯したらおもしろいのではないかと思っています。最近では、自分や多くの人の頭の中にある曖昧な「ザ・絵画」のイメージをフィギュアみたいに実現化したくなって、そういう試みをしています。どれもこれも自分片鱗だと思ってつくっています。どうなのかと思いつながらいろんな作品を作っています。あなたが思う絵画のイメージを教えてください。



米を通して、日本人の価値観、歴史、宗教感などについて考えています。昨年、父が他界した際、普段から信仰のない宗教や風習で葬儀をしたことに疑問を持ちました。私の個人的な葬儀プランを提案することで、宗教感を考えることの必要性を問ひ直します。



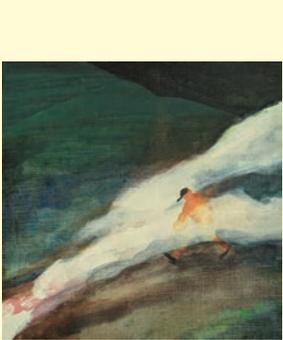
版画技法を通して体と場所、記憶、言語について考えている。風景や場所の表面に刻まれた痕跡や記憶を再訪し、版画的な言語を使い、作家の体を通して解釈・切り分け・誤訳(揺るが)させ、新たな/隠れたイメージを現出させる試みを行っている。



古いもの、洗いものが好きです。旅先の景色やお土産、その土地で育まれた歴史や文化から作品の着想を得たり、雑貨屋や骨董市で見つけた小物をモチーフにしています。絵の具に砂を混ぜて、漆喰壁のようなザラザラした質感を作ること、時間の流れやノスタルジアを感じることができると作品作りを心がけています。よろしくお願ひいたします。



引っ越しをしたり、子が大きくなったり、新しい事は描きたいものを増やしてくれると思います。機を逃さないように描きたいと思います。前回登場した目の生活者も増えています。



「作品と場所」に纏わる思考とアプローチが核となっている。制作環境、展示空間で起きる特有の事象をメディウムとして捉え、作品を介し鑑賞者や場に対して多角的なアプローチを試みている。近年は国内外のファッションシーン、カルチャーシーンを解析した作品が多く、文化という軸の中で生活の中にある等身大の「人と作品の距離感」を模索している。

